

2024.07.02. 祈り会 もう限界に達した時

JD ファラグ牧師

主よ、感謝します。あなたがしてくださる全てに感謝します。主よ、宣言します。あなたは永遠の主で、決して滅びることのない王国の支配者であります。私たちが祈りのうちに集い、また学ぶことができるこの時間を感謝します。主よ、私たちをあなたの御言葉に導き、今夜ご用意してくださっていることを学ばせてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

アーメン、アーメン。こんばんは。どうぞご着席ください。今夜来てくださり大変嬉しいです。オンラインの方もご参加くださり大変嬉しいです。ここにおられる人は、今のうちに、祈りのリストを取っておいて下さい。その前に置いていますので。今夜はしなきゃいけません。だから、ここに2、3メモしています。ちょっと待ってくださいね。いくつかマークしておきます。OK、では、手順を言います。お、まずお知らせすべきは、数日後の7月4日（木）について。（米国独立記念日）日曜日にお話したように、聖書の学びだけでなく、聖餐式もする予定です。「ダニエル書」8章に入ります。「ダニエル書」の学びを再開します。再度、間違いなく、この書全体の中で最も深い預言的な章の一つです。その章には多くがあります。また、聖書の学びの終わりに、共に聖餐式に与ります。ですから、4日は教会家族として、神の御言葉「ダニエル書8章」を共に学ぶ時間と、聖餐式に参加してくださることを願っています。神の恵みによって、私が言うべきは、奇跡的に早く終わること。カイルアの花火は8時半からでは？OK。良い回答です。8時半スタートなら、できるだけ8時半に近い時間に行けるようベストを尽くします。なるべく大体ね。どれくらいの速度で運転するかによりますが、皆さんは法律を守る市民だから、制限速度を守って運転されるでしょう。もちろん私もですよ。今週の木曜日、参加されますように。そして、皆さん、7月4日おめでとうございませう。今夜は、簡単なメッセージから始めたいと思います。改めて主は、「詩篇」から祈りに関することを私の心に印象づけられました。そしてその後、私が共同体としての祈りの出だしを務め、そしてマック牧師が、締めくくりの祈りを捧げます。それから、カポノが賛美で締めくくります。学びの後の祈り会は、力強い賛美報告で開始したいと思います。本当に楽しみです。でも、まだ、峠を越えたわけではありません。本当に祈りが必要です。私が特に祈りたい2つの祈りのリクエスト、私は祈り会の始まりをこれで切り出せることが光栄です。それから皆さんにバトンを託します。御霊の導きのままに、祈ってください。この祈りのリストにある多くの人々が、時間を割いて私たちに祈ってほしいと頼んでおられます。彼らのために時間を割いて祈るのは当然のことだと思います。それが皆さんの出番です。そして、今夜はそうします。では、今夜話したいのは、よく言われるように、『もう限界に達した時』何のことかわかるでしょう？つまり、床が抜け落ちて、自分自身の終わりに来て、あなたは限界に達している。どうすればいいのかわからない。あなたがしようとしてきたことは、問題をさらに悪化させたようにしか見えない。私は祈りのリストを見ながら祈っていたのですが、ところで、これは私にとって役に立って、たぶん皆さんにも役立つと思います。特に、これをEメールで受け取っている人たち。祈りのリストを見て、もちろんまず読んでから祈りますけど、でも、繰り返し祈ったり、祈ってまた読むのじゃありません。もう一度言います。ただ読むんじゃなくて、読んで、その人たちが限界に達している現実の人たちであることに気づく。最初のページでも、ほんの2、3、、、いや、今見ないでください。時間は十分にあります。もちろん、そのためには、私がこの簡単なメッセージを始め、皆さんに分かち合いたいと思っていることを終えるのが前提です。なぜこれをしたのかというと、限界に達すると呼ぶところにいる人たちがたくさんいることを知っているからです。私も含めて、すべての人に提供したいのは、励まし、希望。というのも、人から見れば、これは変に聞こえるかもしれませんが、限界に達することは、往々にして最良の場所となりうるからです。なぜなら、その場所に到達したとき、神が現れるからです。「詩篇 107 篇」でそれを見ていきます。23節から始めて、32節まで読みますので、皆さん注目して欲しいと思います。「詩篇」の作者が書いています。23節、

一詩篇 107 : 23一

船に乗って海に出る者 大海で商いする者

一詩篇 107 : 24一

彼らは見た。主のみわざを 深い海で その奇しいみわざを。

今のところすべて順調だと思いませんか？

一詩篇 107:25ー

主が命じて 激しい暴風を起こされると・・・

OK、ちょっと待って。私は船で、大海で商いして大丈夫だった。そうすることで、主の壮大で輝かしい御業を目にしていた。しかし、あなたが今言っているのは、神ご自身が命じているの？

・・・風が波を高くした。

福音書にありますけど、イエスは弟子たちを危険な嵐の中に故意に送り込まれます。彼らはガリラヤ湖の真ん中にいます。人生の嵐の中、ガリラヤ湖の真ん中で、懸命にしがみ付いています。しかし、彼らは神の御心の真っ只中にいます。私がそう言う理由は、人生での逆境を、神の御心から外れていることと同義であるかのように誤解するとき、私たちはしばしば大きな間違いを犯すから。すべてが順風満帆なとき、私たちは皆考えがちなのが、「うわあ、私は神の御心にいるに違いない。今は何もかもが順調だから、私はただ滑走し、身を任せるだけ。」そして時に、これほど真実から遠ざかることはありません。事実、物事があまりにもうまくいっているとき、私はとても心配になります。私は心の中で考えます。「おっと、嵐がやって来る。」そして神がそれを送られます。こういうのを聞いたことがあるでしょ。このはつらつとした言い方。そうでもない。皮肉です。

「嵐の中、あるいは試練の中から出てくるのか、もしくは、嵐や試練の中にいるか、嵐や試練に突入しようとしているのか。」それは、あなたの心を祝福しませんか？ 訳すと、あなたのクリスチャン人生の大半は、神ご自身が命じ、さらには遣わされる嵐の中にあることとなります。さらに悪化します。では、25節からもう一度、

一詩篇 107:25ー

主が命じて 激しい暴風を起こされると風が波を高くした。

一詩篇 107:26ー

彼らは天に上り・・・

この波が何フィートかは分かりません。

・・・（彼らは）深みに下り・・・

もう船酔いでは？ まだ、あなたの人生のように聞こえませんか？

・・・（彼らの）そのたましいは みじめにも溶け去った。

一詩篇 107:27ー

彼らは酔った人のようによろめき 知恵はことごとく呑み込まれた。

（限界に達した）おお、なんてこと。クリスチャンの人生に、何と的確な表現でしょうか。そう思いませんか？ 人生には不確実な時期があり、浮き沈み、波が打ち寄せ、人生の嵐、人生の試練があって、波についてひとつだけ言えるのは、私は水があまり得意ではありません。息子のリヴァイは、私にそう言います。私は代理でこれを学んでいます。彼は、波が次々とぶつかってくることを話します。覚えているのは、今はもうしませんけど、そんなことをしようものなら、私は間違いなく入院してしまうので、でも以前はブギーボードに挑戦しました。その船は出航しました。（今は手遅れです。）ずいぶん昔のことです。その船が繋がれた栈橋は沈んでしまいました。それほど大昔の話です。でも挑戦しました。本当に楽しかった。コツをつかみ始めていました。小さな波、3フィートだけ。ブギーボードであの高度で、スウィートスポットを得たときといたら、そう、滑り出して、わあ～また沖に出て、これを楽しんでいる。で、一度、、、ちなみにそれが最後でしたけど、あまり楽しくなかったんです。その波が私を打ちのめして、鼻から砂の中へ突っ込んで、私は息継ぎをしようとし、（ブクブク、ドカーン）次の波が襲ってきました。水の中に沈んで、

何これ？ カイルア・ビーチの岸から5フィートですよ。私は叫んでいます。お嬢ちゃんみたいって言おうとしたんだけど、適切じゃないかもしれません。おお、神よ～～～何をなさっているのですか～？ 試練や、波や、嵐が襲う時それが私たちのすること。人生の試練と波、嵐が。そうじゃない？ ただ打ちのめされ、倒れ続ける。「たましいが溶け去る」という言葉を原文から訳すと、心が沈むという意味で、たましいが溶け去り、希望が溶け去る。このことから乗り越えられない。それで十分悪くないなら、あなたはこの試練にひどくよろめく。本当に行ったり来たりし、頭がくらくらする。混乱しすぎ。試練はあなたを混乱させる。言わば、自分の方向性をはっきりさせねばならない。このことがあまりにも衝撃的で、あなたにはその準備ができていなかった。安定していなかった。そして、それは何もないところからやってきて、襲いかかる。それは、絶対に受けたくないような電話だったり、メールやテキストだったり、あるいは、誰かの来訪や、あるいは診察室での診断。それは様々な形で現れます。でも、逆境が襲いかかる。皆さん、25節を覚えておいてほしいのは、神がなぜこのような嵐を許されるのかを理解する上で重要だからです。その意味は、まずそれを送ったのは神だからです。それを命じられたのは神です。それを仕掛けられたのは神です。それを許したのは神です。では、なぜ神は私にこのようなことが起こるのを許されたのか？ 神にご計画があらわれるからです。主にはご計画があらわれます。あなたにはわからない。

「誰が主の心を知っているのですか。」（ローマ 11：34）

それはまるで神が、、、神が私たちに隠しておられるとか、知られたくないのではありません。神は私たちに知らせることがお出来にならないからです。無限の神が有限の人間にその目的、ご計画、御心、御思いを伝えることはできないからです。神が、あなたを置かれた嵐の中で何を成し遂げようとされているかは。私は未だに福音書の記述に驚嘆します。イエスがまたもや分かっておられながら、弟子たちを送られた、特にあの記述、

「すぐに」（マタイ 14：22）

これは、群衆に食事を与えた後のことです。イエスは、驕りという大きな試練から弟子たちを守っておられます。驕りから常に生じる破滅から彼らを守るためです。もし私がその場において、少なくとも控えめに見ても2万人いると信じられていた人々に奇跡的に食事を与えることができたとしたら、記述には、男だけで4000人、群衆の男性だけで4000人か5000人に食事をさせたと記されています。それに奥さんや子供達を足すと、控えめに言っても2万人にはなります。母親が作った男の子のお弁当で、あんなに大勢の人に食べさせられるとは思わなかった。彼らがカゴに手を入れると、奇跡的に魚とパンが増え、余ったものまであるのを目撃します。そして、イエスがこう仰ったのが興味深い詳細で、

「余ったパン切れを集めなさい。」（ヨハネ 6:12）

もし私がそこにいるなら、私は考えます。「イエス様、そんな必要ありません。家に持って帰らせましょう。」ドギーバッグとか、持ち帰り用の箱とかね。何て言うんでしたっけ？ 私はあまり外に出ないので。「明日もまた同じことをすればいいじゃないですか。」いえ、イエスがそうさせたのには理由があらわれます。それって、別の説教の、別の題材ですけど、私が言いたいのは、イエスは彼らを「すぐに」その舟に乗せた。そして、ガリラヤ湖の向こう岸に行かせた。この単語をイエスと関連付けることはあまりありません。「すぐに、即座に」福音書の中でイエスが急いでいるのを見たことがありません。またはイエスが、約束の時間に遅れたのを見たことがありません。

「ごめん。遅れちゃった。癒さなくちゃいけない人たちがたくさん来たんだ。思ったより人が多くて、ごめんね。」なんて。イエスが遅刻したり、急いだりするのを見たことがありません。イエスは決して急がれません。でもこの箇所では「すぐに」なぜ急いでおられるのか？ 何が差し迫っているのか？ 弟子たちをガリラヤ湖の反対側に行かせ、群衆から遠ざけようとされた。彼らがそこにとどまっていれば、その方がより大きな試練になっていたから。私が言いたいのは、時に神は、私たちの人生に嵐をその試練を送り込むように命じられるのは、より大きな試練から私たちを守るため以外理由があらられません。彼らが元の場所にとどまっていたら？ 彼らは、「群衆に食事を与える」第一教会を始めたはずだから。あるいは、「群衆を養う」第二教会。そして、分裂して、それが「群衆に食べ物を与える」第三教会となる。彼らがそこに留まっていたら。即座にメガチャーチができたはずです。イエスをご存知でした。その時、彼らは驕りに満ち

溢れ、自信過剰となり、この奇跡を自分たちだと思い込んでしまうから。それでどうされるのか？ イエスは、彼らを彼ら自身から守るために、そこから離されます。イエスは弟子たちを、「すぐに」船に乗せられた。そして仰います。「向こう岸で会いましょう。」弟子たちをガリラヤ湖に送り、そんな時間がたたないうちに、ガリラヤ湖の真ん中で、よくある通り、どこからともなく嵐がやって来る。本当に興味深いのは、一緒にイスラエルに行った方、ガリラヤ湖での舟は、旅のハイライトのひとつですね。しかし、嵐は突然やって来る。神よ、感謝します。私がガリラヤ湖を訪れたとき、嵐が来なかったことを。私は祈りました。

「神様、お願いします、今は嵐になる時ではありません。福音書は理解しています。私たちは大丈夫です。その記述を、実際にライブで繰り返す必要はありません。」穏やかで美しい。なんということ。静か。しかし、すべて順調でした。すると突如ボーン！ どこからともなく嵐が来る。彼らは震え上がりました。基本的に思ったのは、「これで終わりだ。」彼らは限界に達した。するとどこからともなく、人影が現れる。彼らはさらに震え上がります。それがイエスだと分からなかったから。記述詳細に、弟子たちは幽霊だと思ったと記されています。(マタイ 14:26)

イエスはそれを分かっておられ、「おい、わたしだ。」これがペテロがこう言った時の記述、「主よ、あなたでしたら、来るよう言って下さい。」そしてペテロは水の上を歩き、主から目を離して嵐を見てしまって、沈む。「主よ、助けて下さい。」神に感謝です。3語の祈りに答えて下さいませ。イエスはペテロを助けられます。皆さん、その内容ご存知ですね。ここに彼らがいて、どうです？ イエスとの会話があったとしたら？ ちなみに、弟子たちは向こう岸に行き着きましたよ。それだけでも大きな励みになるはずですよ。あなたは向こう側に行き着きます。試練の最中に滅びることはありません。それはあり得ないことです。あなたは向こう側に行きます。ちょっと面白くなりそうだから、シートベルトを締めて、懸命にしがみつく。人生で最高の時間を過ごすことになる。でも、それで人生が終わるわけではありません。あなたはその嵐を乗り越えられます。彼らは反対側に辿り着きます。私がそこにいたなら、たぶん違いますけど、あくまで説明のために言います。「主よ、嵐になるのをご存知でありながら、私たちをその中へ送りだされました。なぜそうなされたのですか？」これの賛同者がいませんね。イエスは答えられるでしょう。「あなたに学んで欲しいことがあるからです。第一に、あなたが留まっていれば起こった大きな試練からあなたを守りました。第二に、わたしは嵐の中でもあなたと共にいます。わたしは、あなたがその嵐を乗り越えるのを見届けます。その嵐は、たましいが溶けるほど危険で、あなたの心が沈み、限界に達したとしても。ここからが良くなります。28節、

一詩篇 107:28

この苦しみの”とき”(これが鍵)に 彼らが主に向かって叫ぶと・・・

自分に正直になると、そういうものでしょ？ 嵐が襲う時だけ、その時、主に叫び求める。嵐がなければ、祈らない。嵐になると、祈る。どう動くかは分かりますね。物事がうまくいっている時、言わば、順風満帆な時、あなたの祈りはごく一般的なものです。

「主よ、私を祝福し、これを祝福し、彼らを祝福してください。あれを祝福してください。イエスの御名によって、アーメン。」で、逆境に見舞われると、マジになります。「おお、神よ。愛する天のお父様、神よ、私の叫ぶ声を耳に留めてください。あなたのような神は他にいません。」天におられる神を想像すると、

「そろそろ時間だね。ごめんね。このような試練が必要だったんだよ。そうすれば、あなたがわたしのところに来て、叫び求めるから。」私たちが神に叫び求めると、何が起こるのか？

・・・主は彼らを苦悩から導き出された。

一詩篇 107:29

主が嵐を鎮められると 波は穏やかになった。

神は嵐を創造された神です。イエスが水の上を歩かれるとき、正に彼らが恐れているものの上を歩いておられます。なぜか？ 嵐を創造された神だから。主は嵐を司る神です。イエスが寝ておられるときの他の記述

を覚えていますか？ 彼らは、あの舟で長い時間を過ごしていたでしょうね。別の記述ですけど、今度は嵐の中で、イエスが彼らと一緒に舟に乗っておられる時です。で、イエスは何をしておられるのか？ 世の救世主は、何をしているのか？ 眠っておられます。その記述では、弟子たちはイエスを起こさないといけなかった。こんな風に、「主よ、こんな時によく眠れますね？ 私たちは死んでしまいます。」私たちは死んでしまうんですよ。あなたを見ると、眠っておられる。お疲れなのは分かりますけど、なぜ眠っているのですか？」（マタイ 8：25参照）

そしてイエスは、「せつかくの昼寝が台無しだ。少し目を閉じていたかっただけなのに。」そして嵐を止められた。弟子たちは、「いったいこの方はどういうお方なのか？嵐を静め、波を静められるとは。」（マタイ 8：27参照）

イエスは嵐を創造されたお方だから。願わくは、苦難のとき、私たちは主に向かって叫び、それが私たちの最初の反応であって、最後の手段ではありませんように。電話やテキストメッセージや、メールをしても、助けてくれる人は誰もいないからです。つまり、控えめに見ても、最低でも1時間は無駄にすることになります。あなたの人生を襲った試練について、直近の状況は何かを知らせるだけでも。主はすでにそれを知っておられます。これで1時間の節約になります。人に電話しないでください。

「なあ、こんなことが起こったんだ。」と。いいえ、主のお名前を呼び求めて下さい。「主よ。」「はい。あなたが呼ぶのを待っていました。わたしがそれを送りました。あなたがわたしを呼ぶ唯一の方法だから。あなたに問題が起こるときが、わたしが必要な時だから。あなたがわたしを呼ぶ唯一の時だから。だから試練を送りました。あなたの声が聞きたいから。しばらく話していなかったでしょ。」「伝道者の書7章14節」、良く話しますよね。ソロモンがこう書いています。順境の日には、物事がうまくいっている時は、楽しみなさい。罪悪感を感じる必要はない。主を褒め称える。しかし、逆境の時は、もしも逆境なら、ではなく、逆境に見舞われたら、立ち止まって考えよ。今神は、あなたの注意を引かれましたね。神が繁栄と逆境を同時に許されるのは、人が常に神に依り頼みするためです。なぜなら繁栄しているとき、物事が順調なとき、それは一種の霊的眠りへの子守唄のようでは？ まるでいつもそうであるかのように、順風満帆の季節に信頼を置くようになる。そして、それには代償が伴います。その代償は、主との関係、親密さです。だから神は、だから神は繁栄と隣り合わせに、神は繁栄をもたらされますが、同時に逆境ももたらされるからです。因みに、私たちクリスチャンは、繁栄よりも逆境に早く慣れたほうがいいです。その理由を説明します。クリスチャンにとって繁栄は、逆境よりも扱いにくいものです。繁栄を扱いながらも、主との親密さを維持できるクリスチャンは稀です。繁栄は私たちを主から遠ざけてしまう傾向があるからです。そして逆境こそが、私たちが主の御前にひれ伏し主に近づけてくれます。繁栄ではありません。苦難や困難、試練や嵐、逆境の時に、私たちは繁栄や安楽の時よりも多くを学びます。聖典に目を通せばダビデ王が一目瞭然です。彼がイスラエルの王として生涯で最も繁栄していた時、ダビデ王は、王らしくないほど繁栄している。彼は、自分の労苦の成果を享受し、ただ宮殿にとどまり、戦争には出ないと決める。ダビデは戦士なのに。その間にバテ・シェバと姦通し、彼女の夫ウリヤを殺すこととなります。怠惰は、悪魔の仕事場。霊において忙しければ忙しいほど、肉に割く時間は少なくなります。ソドムの罪は繁栄です。確かにソドムは性的に不道徳で、それは繁栄が故、彼らには時間がありあまっていたから。楽な時ほどトラブルに巻き込まれます。しかし、困難の時こそ、私たちが主に近づく時なのです。時に思うのが、もっと上手く言えませんが、主は、こう分かっておられて、待機して、準備して待っておられる。

「彼はわたしを呼び求める。彼はわたしに叫ぶ。わたしが送ったこの嵐の中でそうなる。わたしは即座に対応し、その試練から、時に苦悩から彼を導き出す。わたしはその嵐を鎮める。わたしはその波を抑える。」

そして30節、今夜の祈り会で私たちが向かうところです。

一詩篇 107：30

波が風いだ（静まった）ので彼らは喜んだ。・・・

（私は静まるという言葉が好きです。）今日、約束があったので、あえて早めに来ました。ただ静かに座りたかったから。電話なし、毎日の1500通のメールもなし。825のテキストメッセージなし。何もなし。私はただ静かにしていたかっただけです。聖霊の、静かで、静寂で、小さな御声を聞くことができるように。音

量を下げることがありました。素晴らしい30分ほどでした。そうしないと持てなかった時間。誰が言ったか忘れましたけど、3つのS。静寂 (Solitude)、沈黙 (Silence)、、、3つ目は忘れてしまいました。賜物です。これをしてみてください。言うは易く行うは難し。一人になってみてください。その静かな時間の中で、ただ静かに一人で、救い主と共にいる。それはとても難しいです。特に、私たちが生きているこの世では、私たちの注意を引くため、あらゆる声ひっきりなしに飛び交い、競合する時間的要求がありますから。最も難しい仕事は、静かな時間を持つことです。それをする時、、、30節の続きを聞いてください。

・・・主は彼らをその望む港に導かれた。

私がここで見たことは、最初に読んだときにはそう簡単には分かりませんでした。あの嵐がなかったら、あの嵐の中で私が主に祈り、泣き叫んでいなかったら、そうでなければ、神が嵐を静めるのを見ることはなかったでしょう。嵐がないのに、神は、どうやって嵐を鎮めるの？ まだ押し寄せてこない波をどうやって静めるの？ そして私は、主の喜びの杯を味わい、その静かな時間が、私の望む樂園へと導いてくれる。安全な場所、安全な聖域、あの嵐がなければ、私が導かれることはなかっただろう場所。あなたが人生で、二度と経験したくないような試練を経験したことがあるとしたら、その試練で神がしてくださったことは何にも替え難いものでしょう。私が今、何を話しているか分かるでしょ。もちろん、それは常に後になっての話です。私は祈るときにそれを指摘します。主よ、前と最中に、後のことを思い出させてください。皆さん、分かります？ なぜなら、私はいつも後のことを忘れてしまうから。なぜなら私は、嵐の中に、嵐のど真ん中に、嵐の最中にいるから。嵐の前でさえ。主よ、後があることを思い出させてください。後、その後とは？ その望む静かな港。そして31節、今夜の祈り会で私たちが進みたい方向です。詩篇の作者が書いています。

一詩篇 107：31ー

主に感謝せよ。その恵みのゆえに。 人の子らへの奇しいみわざのゆえに。

一詩篇 107：32ー

民の集会で主をあがめ・・・

(それが皆さん、この場所です。) 聖徒の集まりである教会。

・・・長老たちの座で主を賛美せよ。

公の祈り、共同体の祈り、教会の祈りには何かがあります。私たちが声をあげ、主のいつくしみに感謝する今夜の祈り会のような神の民の集まりには何かがあります。私たちの祈りには、感謝の領域が欠けていると思います。賛美と感謝。私たちの祈りは往々にして、嘆願に満ちていると思います。それは何も悪いことではありません。しかし、それは偏った祈りです。私たちの祈りには、バランスが必要だと思います。神への崇敬、神への畏敬、神への感謝、神への賛美、それから神の御座への請願、そして神を崇める。子どもたちがあなたに話しかけるのが、あなたにして欲しいことのリストを持っている時だけだったら、子どもたちとの関係はどんなものになります？で、決して感謝しない。主はそれに目を留められますよ。イエスは、ツァラアトに冒された十人の人を癒されました。たった一人、癒された後に戻ってきて、癒されたことを主に感謝しました。(ルカ 17：12～17参照)

私は、神がその記述を、靈感をうけた聖書正典に含める必要があるレベルと見なされた事に非常に魅了されます。神は人々が感謝することに目を留められます。そしてイエスは仰いました。

「待ちなさい。あなたがたの人数を数えさせてください。1人、、、九人はどこにいるのか？ 十人きよめられたのではなかったか。戻ってきてお礼を言うのは一人だけ。」(ルカ 17：17参照)

英語には、欠点はあるけど、多くの形をとる最強の2つの言葉が存在します。その2つの言葉のうち1つは「Thank you/ありがとう」そして、もう一方は、「I'm sorry/ごめんなさい。」心からの。いいですか。でっちらげないでください。人々は、それが偽りであれば、すぐに見抜けます。こんな風です。「ごめんな！」「うわ～なんとも心がこもってるね。そんな心からの思いを感じることができて、、、」いえ、そうじゃない。因みにあなたは、バレたから謝った。本物の悔い改めにつながる敬虔な悲しみではない。いえ、本物の変化によって証明されたとき、それが敬虔な悲しみだとわかります。本当の悔い改めとはそれです。この言

葉は、ただねじ曲げられ、聖句を曲解し、その意味が大きくかけ離れています。本当は、心を180度変える事。方向を変え、気持ちを変える事。あなたが心を入れ替え、悔い改めるとき、神はあなたの心を変えてくださいます。ですから、今晚私たちができることを望むのは、もうひとつだけお話ししてから、そうしましょう。今夜、私たちにできることは、この祈り会の集会で主を称え、賛美すること。確かに私たちは、私たちに祈りを求めてきた人々に代わって、多くの必要のために御座に嘆願するつもりです。でも、神に感謝することを忘れてはなりません。ああ、ほんの些細なことでも、どれだけ感謝することがあるでしょう。

「ええ、でも牧師さん、私は本当に苦勞しているんです。私は限界に達していて、、、」でもあなたにはまだ神に感謝することがあります。時に、視点を変える必要が多々あります。ある言い回しは、「私は靴がきついと文句を言った。足のない人を見るまでは。」そう考えると、視点が変わります。世にはそのための格言があって、それはパラダイムシフトです。ある日突然、あなたは我に返って、正気に戻る。私はここで文句を言っていて、で、あれに目をすると、主よ、お許してください。主よ、私に両足があることを感謝します。当たり前前に考えていた。神に感謝する。主よ、私の指を感謝します。もし指がなかったら、どうやってメールを打てばいい？ どうやって、、、違いますか？ OK。今夜、それができることを願います。御座に請願しましょう。でも、主へ賛美もしましょう。では、角を曲がって、締めくくりますが、その前に、言葉では言い表せないような人生の嵐について少し話したいと思います。どういう意味かわかりますか？ つまり、あなたはもうとっくに限界を超えている。限界だって？ 私は限界を選ぶよ。そんなものはもうとっくに過ぎていて。とても絶望的なことで、私は無力だと痛感している。途方に暮れているわけじゃない。限界なんかもう2週間くらい前に来た。そんなもの、とっくに通り越している。この嵐、今、この嵐が結末。聖書に記されたものの中で、このことを語る最も衝撃的な記述のひとつに注目してもらえます？ 限界を超えたとき、その嵐の中で希望を持つことについて。それは「使徒の働き」27章にあります。聞いてください。難破船の博士号を持つ使徒パウロに他なりません。彼はその道のプロで、そして27章に突入すると、彼は今、4度目の難破に遭っている、あるいは遭おうとしています。思いませんか？ 3隻の難破船から生き延びて、、、私は自分のこととして言うから、いい？ チーム代表で。もし私が3回難破したら、3回ですって？ 船には二度と乗らないよ。もうたくさんです。終わり。「船に乗るかい？」「いや、遠慮しときます。私は3回難破していて、今、私を別の船に乗せようって？いいえ、私だってそれくらい察します。難破3回ですよ。」もしここで彼が別の船に乗っているなら、神が彼をその船にお乗せになられたのです。そして、嵐のお出ましです。この嵐はとてつもなくひどくて、あの使徒パウロでさえ、希望を捨てました。さて、「使徒の働き」27章の20節はまさにその絶頂で、何日も経って、つまり、彼らは食料をすべて海に捨ててしまい、彼らはものを括りつけようとしていて、救命ボートなんか、とっくに無くなっていた。この嵐は荒れ狂い続け、波が砕け散って、しかも彼らはベテランの船乗りたちです。つまり、彼らは自分たちが何をしているかを知っている。これは彼らにとって初めてのロデオではないのです。実はパウロは4回目。彼らは自分たちの仕事を理解しています。生き延びるために、荷を軽くするために、すべての機材や物資を投げ捨てているんです。そして、何をやっても無駄。で、20節にこうあります。

・・・太陽も星も見えない日が何日も続き、・・・（使徒の働き 27：20）

何日ですか？ わからないけど、“何日も”は多すぎるように聞こえます。

・・・暴風が激しく吹き荒れたので、・・・

この嵐は容赦しません。あなたは船の上です。よく眠れています？ それよりまず、誰が食事をします？ 誰に食欲がありますか？ そして、もしあったとしても、食料はすでに海に捨てました。じゃあ、食べないで、寝ているの？ そうは思いません。何日も、ただ必死でしがみついているだけです。そしてこの嵐は吹き荒れるばかりです。それはあまりにひどく、聖霊により、ルカは次のように書いています。特に2つの言葉に注目してください。

・・・私たちが助かる望みも今や完全に絶たれようとしていた。・・・

それを理解できました？ 私たちって誰のこと？ ルカ、パウロ、そしてアリスタルコ。私たち、私たち全員。今や完全に。この言葉は、彼らが希望にすがっていたことを示していて、けれど限界となり、それはもう過ぎてそしてついに、これを切り抜けるのは無理だという意味です。これがその結末。そして彼らはすべ

ての希望を捨てた。この先、生き延びれるという希望はまったくない。繰り返しますが、もし"私たち"という言葉がなかったら、これほどの衝撃を与えなかったでしょう。しかしあるんです。なぜなら、その"私たち"には、すでに3隻の難破船から生還したパウロさえも含まれていたから。しかし、この嵐はそのパウロでさえも「これまでだ」と思った嵐でした。で、パウロがいます。想像してみてください。彼は、自分の人生がどのように終わるかだけでなく、いつ終わるかという現実を覚悟しました。しかし、神は。しかし、神は、神だけがお出来になるように、パウロに思い起こさせてくださる。そこで止めます。私たちは、再度気付かされる必要があります。私たちは忘れるから。今週の木曜日は、私たちの特権として、毎月第一木曜日に一緒に与かる聖餐式です。イエスは仰います。

「・・・飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい」。(1コリント 11:25)

それは記念であり、お祝いです。なぜ？ 私たちは忘れるから。私たちは何を忘れるのか？ 自分たちが救われていることを。私たちは、まるでイエスが私たちの永遠の命を贖うために十字架で死ななかつたかのように生きている。お忘れですか？ ああ、そうでした。これは、これは、これ以上はないほどひどい状態です。クリスチャンにとって、こんな言い回し聞きますね。「これは今までにないような地獄だ。」そしてノンクリスチャンにとって、悲しいことに、これは逆で、「これまでなかった最も天国みたいな日だ。」

再度、それは、ここが私の最終目的地ではないことを思い出させてくれます。なので、私たちは忘れるから、思い出させてもらう必要があります。細部にご注目、文中で、彼が気付かされたことが述べられています。彼は、パウロは、あの暗い夜に、気付かされます。まったく星が見えない暗い夜で、ひどい嵐。ちなみに、当時はそうやって航海していたのです。コンパスやナビゲーション機器などまだ発明されておらず、それにより、自分たちの進路を知ったのです。彼らに道しるべはありません。星は見えず、どこにいるのかもわからない。彼らは嵐を生き延びる見込みはない。真っ暗で、星も見えず、月明かりもない。そして夜の暗黒の苦しみの中で、御使いがやってくる。神の御使いがパウロのもとにやってくる。そして、パウロが忘れていたことを思い出させます。パウロは何を忘れていたのか？ どうやらパウロは、その船が向かっていたローマのカエサルの前に立つことを忘れていたようです。「使徒の働き」27章の23節から25節を聞いてください。パウロは今、愛する人に届くことはない手紙を書いている、そこにいた乗員皆に伝えています。「愛しているよ。いい父親じゃなくてごめんね。僕のパスワードとログイン情報は金庫の中で、暗証番号は、、、」

ともかく。つまり、これまでだ。身辺整理をしなさい。もう終わりだ。時間がない。パウロは立ち上がり言います。

・・・昨夜、私の主で、私が仕えている神の御使いが私のそばに立って、こう言ったのです。『恐れることはありません、・・・』

この4つの言葉

(Do Not Be Afraid : 恐れることはありません) は、もしかしたら今夜の誰かにふさわしい言葉かもしれません。恐れるな。恐れるものは何もない、と言った方がいいかもしれません。恐れることは何もないのです。パウロ、あなたはカエサルの前で審判を受けなければなりません。(使徒の働き 27:24)

覚えてる？

・・・神は同船している人たちを、みなあなたに与えておられます。』ですから、皆さん、元気を出しなさい。・・・

ちょっと待つて。3節前だかなんだかに、彼らは皆、ついに一切の希望を失っていた。そして今、新たな力、新たな希望、新たな勇気を得たパウロがここにいます。なぜか？ 彼は、神のための神の約束を再認識したからです。もし神が、「あなたはカエサルの前で裁きを受ける」と仰られたら、どうなると思います？ あなたはカエサルの前で裁かれるのです。「ええでも、この約束は人類史上初めて実現しない約束かもしれない。私たちはみなこの嵐で滅びるから。」いや、そうではありません。必ず着きます。あなたの旅程にちょっと遠回りがあるだけです。

・・・ですから、皆さん、元気を出しなさい。私は神を信じています。私に語られたことは、そのとおりになるのです。（使徒の働き 27：25）

（会衆：アーメン。）で、そうになりました。想像できますか？ 男たちはこう、「OK、待って、待って。それで、私たちは助かるの？」「そう。」「神が君にそう言われたのか？」「そう。」「君にそう約束なされたのか？」「そう。」「あなたの神についてもっと知りたい。」「知るようになるよ。マルタ島に突っ込んで、島民全員が救われるまでの我慢だよ。君も救われるんだよ。」しかも、それだけではなく、こんなことがお出来になるのは神だけです。神はパウロにこの嵐を乗り越えさせ、カエサルの家にいる人々の救いのために、カエサルの家へ。そして、あの嵐がなければ、このようなことは起こらなかったでしょう。決して、決して、決して、見くびってはいけません。なぜ神はあなたの人生にその嵐を許したのかということ。神は、あなたが想像もできなかつた、そうでなければ成し得なかつたことをなさい。現在でもマルタ島に行けば、それを訪れることができます。そこにはまだ強いクリスチャン、確固たる信者、キリストにある兄弟姉妹がいます。マルタ島での難破がその理由です。ご存知の通りです。つまり、あの船が難破していなかったら……。あの島の人たちが、地元の人たちが救われていなかった。そして男たちは別の船に乗り込み、案の定、パウロはローマに辿り着き、カエサルの前で裁判を受ける。そして、これで締めくくります。「ピリピ人への手紙」4章21節と22節。そしてこのことは、私たちが限界に達した時、私を含め、私たち一人ひとりに、大きな希望を与えてくれるはず。パウロは、ピリピ教会への手紙の最後にこう書き送っています。彼の言葉に耳を傾けてください。私たちは通常、映画の終わりのエンドロールのように、結末を素早く読み過ぎてしまいます。誰が、ポップコーンを食べながら粘るんです？「いやあ、ちょっと待って、エンドロールが見たいんだ。」誰も見ないで、立ち去る。そう、これはエンドロール。これが結末で、それらが流れる。それらを読み過ぎさないでください。なぜなら、それらの中には何かがあり、ピリピ人への手紙4章21節がそうです。

・・・よろしく伝えてください・・・（ピリピ 4：21）

彼はここローマにいて、ピリピの信徒に手紙を書いています。キリスト・イエスにある聖徒の一人ひとりに、よろしく伝えてください。私と一緒にいる兄弟たちが、あなたがたによろしくと言っています。すべての聖徒たち、特に・・・（聞いてください）・・・カエサル家に属する人たちが、よろしくと言っています。何だって！？ 彼はローマにたどり着きます。これは彼にとって4度目で、最後の難破です。難破船ばかりでヘトヘトだったから、神に感謝します。パウロはローマに辿り着き、カエサル家はイエス・キリストの救いを得ます。ふむ。。神は最初からそういうお考えだったのかしら。このような時のために、神があなたをその場所に置いたのではないと、どうしてわかるのですか？ 彼がカエサル家に属する人たちを得たなら、神はあなたを用い、あなたをそこに連れていかれます。ただ、豪華客船ではないだけで。考え方も、どう思うかも、いつ考えるかも、あなたとは違います。順風満帆とはいかないでしょう。神は、神の時と栄光のために、神の方法であなたをそこに連れて行っていただきます。

締めくくります。神はあなたを見届けてくださいます。神はあなたのことを決して忘れず、神は決してあなたを置き去りになさらず、神は決してあなたをお見捨てになりません。考えてみてください。神はあなたに多くをつぎ込んでおられます。あなたは投資の対象です。神はいくらつぎ込んだのですか？ 何もかも。この投資にいくらかかるのか？ すべて。イエスの命です。イエスはあなたの希望の錨です。そもそも神は嵐を送り、神は、嵐を創造された神として嵐をコントロールし、そして、あなたがいる嵐を本当に心配しておられる。あなたが限界に達したときでさえも。そして、あなたは心を強くし、元気を出し、待ち望んでください。「詩篇27篇」13節と14節が大好きです。私は、それを「待てば分かる詩篇」と呼んでいます。ダビデはまさに絶望の淵に立たされ、彼は言います。

もしも私が生ける者の地で主のいつくしみを見ると信じていなかったなら一。（詩篇 27：13）

そして、自分自身と対話し、独り言ではありません。それは違うものです。それには、施設の専門用語があります。これは独り言ではなく、自分自身との対話です。詩篇全体を通して、それが分かります。お前、座れよ、って感じです。わがたましいよ、なぜおまえはうなだれているのか。私はなおも神をほめたたえる。（詩篇42篇、43篇参照）詩篇27篇14節で、彼は言います。

・・・心を強くせよ。

彼は自分に、心を強くせよ、と言いつけました。同じように、鏡の中の自分を見つめる必要があると思います。私はそんなことはしたくないです。私には無理です。以前はできたけど、今は...。でもとにかく、ただ自分と対話してください。「JD、勇気を出して。主を待ち望め、強くあり、主を待ち望め。そうすれば分かる。ただ待つんだ。今にわかる。」「ああ、でもどうかな、なんだかこれは良くないみたいだ。」「ああ、でも一見よくないように見えても、神は良いお方だ。」「ああ、でもこれは本当にひどいよ。」「そう、でもそれがどんなに悪くても、神がどれほど良いお方であるかを変えることはできないよ。」

OK。もう叫ぶのはやめます。少しでもお役に立てれば幸いです。特に、本当につらい時期を過ごしているのならなおさらです。あなたはもう限界。その後があります。あなたは知らないでしょう、もし、、、私は神がこう言われるときが大好きで、誰にだか忘れましたが、「言っても信じないでしょ。」まるで神は、私たちに告げたいとでもいうようです。でも、いや、あまりにも信じられないこと。「わたしがあなたの人生に送り込んだこの嵐の中で、その嵐を通して、わたしがあなたに何を用意しているのかを話したとしても、あなたは信じないでしょう。」まさに桁外れです。

OK。祈り会を始めたいと思います。まずはウォルトとケイトから。私たちはこの兄妹をこう愛称します。ウォルトとケイトとあと8人。彼らには8人の子供がいます。彼らは本土オレゴン州にも、ここにも家をお持ちです。で、彼らがここにおられる時はいて、木曜日にテキストメッセージを貰いました。水曜日だったかな？ あ、そうそう。ケイトから、娘さんエレナのことで、エレナは、2フィート幅の丸太が彼女の背中と頭の上を転がり、脚に落ちて救急車で運ばれる事故にあった。それですぐに、ゲイルとジェシカに祈りのリストに入れてもらいました。状況報告を求め続けると、ケイトからエレナは脾臓を裂傷し、歯が6本折れ、一晩入院した。それが水曜日で、外傷外科医の診察を待っているところだと。だから何度もチェックしながら、このような危機が起こって、聞くのに私はしつこくしないようにしています。しかし、私たちの祈りの戦士たち全員に、このメッセージを送りました。で、もう一度連絡を取りました。「娘は手術を終え、驚くほど良くなりました。主を褒め称えます。食べて、飲んで、笑っています。私たちの娘が戻ってくるなんて、なんという贈り物でしょう。あと数ミリで下半身不随になるところでした。神は娘を助けて下さいました。回復まで1年かかります。ウォルトは昨夜ここに着きました。昨夜は痛みがひどかったのですが、今はICUを出て落ち着いています。どうか祈り続けて下さい。ケリーはどうしていますか？ ケイトらしいね。ケリーはどうしてる？（ケリーは勇敢だよ。）（これが最優先です。）娘は、身体固定器具を着装することになります。」

で、これが水曜日の夜、いや、金曜日の早朝でした。この時点で、彼女は3ヶ月間、睡眠時以外は常に体に装具をつけることになり、最低でも半年は固定具とネジです。その後、彼女にメールを送ったら、さっき話した「詩篇 27:14」、彼女が瞑想していた詩篇でした。それから彼女は、固定具とネジはおそらく一生このままだろうという診断報告を受けました。そう、“あのラッパが鳴るまで” 一拍手 これは奇跡です。とにかく、写真をお見せできればいいのですが。彼らは自宅に戻り、神だけがお出来になります。で、日曜日、エレナは歩いています。彼女が立っている写真を貰いました。彼女は粉々になったんですよ。それで固定具で、、、完全な奇跡です。では、彼女のために祈ることから始めたいです。

そして、2つ目の祈りは、、、それから、皆さんに引き継ぎます。そしてマックが閉会します。でも、私は皆さんに祈りのバトンを渡します。もう一人祈りたいのは、祈りの時間を開くのは、アナスタシアのため。この人はもちろん、私の注意を引きました。彼女は生後6週間で、トリソミー18と診断された。私たちの娘ノエルが診断されたのと同じです。彼女は現在、新生児集中治療室にいます。困難な道のりです。私はこのことをすべて知っています。私たち夫婦はこのことをよく知っています。チューブで栄養を供給しなければならず、私たち夫婦は、交代で24時間体制で世話をしていました。トリソミー18の娘さんアナスタシアのために祈りを求めておられます。だから、この2人のために祈ります。皆さんも一緒にぜひお願いします。でも、それが終わったら、先にエアコンを切ります。いや、今そうしましょう。忘れないように。で、それを祈ったら、ライブ配信も終了します。参加くださってありがとうございます。励みになっていますように。では祈りましょう。

天のお父様、まず最初に、ウォルトとケイト、そして彼らの友情、このミニストリーの友人たちを感謝しま

す。なんとという祝福でしょうか。彼らの家族全員、成長した 8 人の子供たち全員が素晴らしいです。しかし、主よ、あなたはひとつの理由から、このようなことが起こるのを許されました。あなたは奇跡をなさいます。そして、なんと力強い証でしょうか。主よ、あなたは家族全員がこのような目に遭うことで、何か考えておられるに違いありません。でも、だれが主の心を知っているのですか。 (ローマ 11:34)

主よ、私たちは彼らのために祈り続けたいのです。外科医や医師がみな困惑するような、まぎれもなくあなたであると分かる奇跡の、迅速な回復が続くように。医師たちではなく、全能の神の御手だと分かるように。主よ、祈ります。この先の長い道に対する恐怖や不安、怯えがありませんように。なぜなら、それは長く、苦しく、困難で、おそらく後退することもあるからです。しかし、おお、神よ、あなたは大変ご忠実です。命を救って下さりありがとうございます。彼女を守ってくださり感謝します。主よ、この奇跡をこのような大惨事後、わずか数日のうちにしてくださいました。主よ、そのことをあなたに感謝します。彼らのために祈り続けます。

そしてアナスタシア。これは胸が張り裂けそうですが、それでも、あなただけがご存知な理由から、あなたのご主権において許されました。信仰によって、生後 6 ヶ月のトリソミー18 の女の子を持つこの貴重な家族に、あなたはその嵐の中で彼らと一緒におられ、あなたは彼らを見守られます。彼らが想像もしなかったようなご方法で。主よ、私たちに祈りを求められた貴重な人々のために祈れる私たちの特権をあなたに感謝します。今、高きところから私たちが教会として一緒に祈るのをどうかお聞きください。集会の中で、あなたに感謝し、あなたを賛美し、あなたに、あなたの聖なる御名に、すべての栄光を帰します。主よ、ありがとうございます。感謝します。イエスの御名によって、主よ、感謝します。

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリー・カネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii
hukuinn7

筆記